

第23回

NMIJセミナー

—確かな分析に必要な標準物質—

日時: 2008年9月5日(金) 13:30~16:30

場所: 幕張メッセ 国際会議場 2階 国際会議室

講演プログラム【開場 13:00~】

- | | |
|-------------|--|
| 13:30-13:45 | 挨拶・概要説明
千葉 光一(NMIJ 副研究部門長) |
| 13:45-14:00 | 臭素系難燃材含有ポリスチレン(RoHS指令対応標準物質)
松山 重倫(NMIJ 高分子標準研究室)
RoHS指令で規制されている臭素系難燃剤に関して、標準物質の使い方や、分析法などをご紹介いたします。また重金属含有プラスチック標準物質についてもご紹介いたします。 |
| 14:00-14:20 | 地球温暖化関連の標準ガス —半導体プロセスで使用されるSF₆、CF₄およびCF₄、C₂F₆混合標準ガス—
青木 伸行(NMIJ 有機標準第1研究室)
NMIJでは、半導体プロセスで使用される地球温暖化ガスの放出量を見積もるために使用される標準ガスの開発を行いました。本セミナーでは、本標準ガスの値付け、および用途を中心に紹介いたします。 |
| 14:20-14:40 | 塩素系農薬標準液 —DDT, DDE, DDD, HCH 4種混合標準液—
石川 啓一郎(NMIJ 有機標準第2研究室)
残留性有機汚染物質DDT類の分析における信頼性確保を目的とする標記の認証標準物質NMIJ CRM4214-aを開発しました。認証値の決定方法や国際基幹比較への参加結果などについて紹介いたします。 |
| 14:40-15:00 | 臨床検査用C反応性蛋白標準液
加藤 愛(NMIJ バイオメディカル標準研究室)
C反応性蛋白(CRP)は炎症反応マーカーとして臨床検査で利用されているタンパク質です。本セミナーでは、分析機器の校正用としてNMIJが開発した「C反応性蛋白標準液」についてご紹介いたします。 |
| 15:00-15:20 | 多環芳香族炭化水素類分析用の湖底質標準(NMIJ CRM 7307-a)
伊藤 信靖(NMIJ 有機標準第2研究室)
環境中に広く分布している多環芳香族炭化水素類(PAHs)を精確に定量するためには、環境組成型標準物質を用いた分析手法や分析技術の妥当性確認が必要です。ここでは、昨年度に開発したPAHs分析用の湖底質標準について紹介します。 |
| 15:20-15:40 | 微量元素分析用食品標準物質 —白米粉末標準物質—
稲垣 和三(NMIJ 環境標準研究室)
国際食品規格(CODEX)における米中Cd濃度の基準に対応した白米粉末標準物質(Cd含有濃度が異なる2種)を開発しました。本セミナーでは、Cdを含む微量元素含有濃度の値付け方法及び本標準物質の用途についてご紹介いたします。 |
| 15:40-16:30 | 個別相談
各認証標準物質の発表終了後に、それぞれについて、使い方の詳細や分析でお困りのことがありましたら、マンツーマン形式でご相談を承ります。また、当日、発表に含まれていなかった標準物質のこと、分析でお困りのことのご相談にも対応いたします。 |

